

## 2023.9.2 令和5年度第2回理事会議事録

日時： 令和5年9月2日（土） 10：00～15：30

会場： 都市センターホテル5階「オリオン」（ハイブリッド開催）

出席者：下線はWeb参加者(15名)

理事長：加藤 聖子

副理事長：大須賀 穰、万代 昌紀

理事：井篁 一彦、岡田 英孝、岡本 愛光、梶山 広明、加藤 育民、亀井 良政、  
川名 敬、甲賀かをり、小林 裕明、小林 陽一、杉浦 真弓、杉山 隆、  
鈴木 直、角 俊幸、関沢 明彦、田中 守、谷口 文紀、永瀬 智、  
増山 寿、横山 良仁、吉田 好雄、吉野 潔

監事：青木 大輔、木村 正、八重樫伸生

顧問：小西 郁生、吉村 泰典

特任理事：水主川 純、宮城 悦子、山本 英子、渡利 英道

専門委員会委員長：板倉 敦夫、岩瀬 明、樋口 毅

第76回学術集会プログラム委員長：曾根 献文

第77回学術集会プログラム委員長兼幹事：衛藤 英里子

第75回学術集会プログラム委員長兼幹事長：矢内原 臨

副幹事長：徳永 英樹

幹事：井平 圭、岩橋 尚幸、折坂 誠、春日 義史、小出 馨子、小松 宏彰、  
杉下 陽堂、竹中 将貴、田丸 俊輔、道佛 美帆、中川 慧、福原 理恵、  
水無瀬 学、森 蘭代、森定 徹、安岡 稔晃、矢幡 秀昭、山口 建、  
芳川 修久

議長：久具 宏司

副議長：田中 京子、中塚 幹也

弁護士：芝野 彰一

陪席：津田 尚武

事務局：吉田 隆人、正宗 玄、加藤 大輔

10：00 定刻になり、理事長、副理事長、常務理事の25名全員が出席し、定足数に達しているため、加藤聖子理事長より開会の宣言があった。なお、Web会議システム(Zoom)を用いての開催のため、事前に参加者の音声や映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることが確認されたうえで、議案の審議に入った。また、議事録署名人には、理事長、監事の計4名を選出し、これを承認した。続いて、令和5年6月24日開催の令和5年度第2回臨時理事会の議事録案の承認と、同日開催の令和5年度第3回臨時理事会の議事録を確認した。

**加藤聖子理事長**「6月24日に新キャビネットが発足し、各委員会が積極的に活動していただきお礼を申し上げます。事務局の働き方改革の点で、事務局は18時以降の会議に参加しない方針としたが、みなさん守ってもらっており感謝申し上げます。しかしながら小委員会ではまだ徹底されておらず、18時以降の事務局の参加もあると聞いている。その点、配慮をお願いしたい。本日は審議事項も多数あり、報告事項は簡潔にお願いする。」

## I. 主要協議事項

### 1) 運営委員会の答申について

[資料：協議運営 1]

万代昌紀副理事長「昨日行われた運営委員会から資料の通り答申する。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### 2) 令和6年度日本産科婦人科学会予定表について

[資料：協議総務 1]

加藤聖子理事長「協議総務資料1を参照。できるだけ学会などを調べて予定しているが、重なっているなどあればWeb参加をしてもらい、できるだけ理事会には参加してもらいたい。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### 3) 第76回学術講演会について

[資料：学術講演会 1]

大須賀穰第76回学術集会長「一般演題の応募を開始した（募集期間：2023年8月1日～9月26日正午、修正期間：～10月4日）。日産婦誌10月号に、第76回学術講演会第2回予告を掲載した。」  
加藤聖子理事長「問題はないか。」  
大須賀穰第76回学術集会長「プログラムなど入れたいことがあれば今であればまだ間に合う。後からは入れることができない。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## II. 専門委員会報告並びに関連協議事項

### 1) 生殖・内分泌委員会（岩瀬明委員長）

#### (1) 会議開催

令和5年度 第1回生殖・内分泌委員会（Web会議）	8月1日
---------------------------	------

(2) 厚生労働（子ども家庭庁）科学研究「本邦の配偶子、胚管理に関する関連4学会による統一提言作成」（班長；寺田幸弘先生）から本会に依頼のあった、胚培養士に関する4学会共同提言についての意見照会をおこなった。本意見等を基に、8月19日に4学会の班会議にて最終案が作成され、本会として、この最終案を承認いただきたい。

[資料：専門委員会 1-1, 1-2]

岩瀬明委員長「本件、岡田英孝先生が関わっていらっしゃる。上記について承認いただきたい。」

岡田英孝理事「本日承認を頂ければ、子ども家庭庁へ持っていきたい。」

加藤聖子理事長「胚培養士について重要なことなのでよろしく願います。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 2021～2022年度生殖・内分泌委員会「本邦における多嚢胞性卵巣症候群の診断基準の検証に関する小委員会」で作成した多嚢胞性卵巣症候群診断基準の改定について

[資料:専門委員会 1-3]

岩瀬明委員長「IEBG2023に沿って改定したい。AMHについて議論してきた。IEBG2023はAMH診断基準に含まれているので、本会案として学会誌に掲載したものにAMHは入っていないが、AMHも入れたい。ご意見を賜りたい。」

大須賀穰副理事長「昔から海外と日本と違うことが問題となっていたが、今回、海外の有識者の意見は聞いているか。」

岩瀬明委員長「委員会として公式には聞いていないが、個別には尋ねており、LH高値は日本独自であり継続することは聞いていない。」

万代昌紀副理事長「保険は通っているか。」

岩瀬明委員長「AMHは通っていないので議論となっているが、保険収載申請しているところで、また保険ではなくても良いと判断している。」

加藤聖子理事長「理事会としてはAMH含むものとして承認したいと思う。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 教育委員会用語集・用語解説集委員会より、用語集・用語解説集第5版の改定項目について不育症関連の用語に関するコメントを求められ、回答した。

## 2) 婦人科腫瘍委員会 (川名敬委員長)

### (1) 会議開催

#### 親委員会

令和5年度 第2回婦人科腫瘍委員会 (Web会議)	8月22日
---------------------------	-------

#### 小委員会

婦人科腫瘍登録の運用と nationwide のがん疫学に関する小委員会	7月14日
CIN 管理とがん検診の均てん化に関する小委員会 (Web会議)	7月19日
若年者に対するがん診療に関する小委員会 (Web会議)	7月31日
婦人科癌の取扱い規約改訂と普及に関する小委員会 (Web会議)	8月3日
婦人科がん治療後のサーベイランスに関する小委員会 (Web会議)	8月7日
婦人科悪性腫瘍に対する低侵襲手術の方向性を考える小委員会 (Web会議)	8月8日
がんゲノムと新しいがん薬物療法に関する小委員会 (Web会議)	8月8日

(2) 2023年度公募研究「HBOCを中心とした遺伝性卵巣癌診療、及びがんゲノム医療の実態調査」について [資料:専門委員会 2]

(3) 9月発刊予定の『卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約 臨床編 (第1版補訂版)』について、本体価格2,500円+税 (税込2,750円)、初刷部数4,000部であり、ともに、第1版と同様となる。また、電子版も併せて販売する。

(4) 2024年登録実施要項 (子宮頸癌、子宮体癌、卵巣腫瘍卵管腹膜癌) について

[資料:専門委員会 3-1, 3-2, 3-3]

川名敬委員長「遺伝子的なプロファイルも盛り込みながら今後役に立つ改訂を考えている。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) FIGO2023 改訂による日産婦子宮体癌進行期分類改訂のタイムスケジュールについて

[資料:専門委員会 4]

川名敬委員長「2026年1月1日から本会の進行期分類にしたいと思う。通常はFIGO改訂の3年後になる。」

(6) FIGO2023 の改訂に伴う、子宮体癌取扱い規約臨床編第3版の改定を行うため、子宮体癌取扱い規約臨床編第4版編集委員会を立ち上げて、関連3学会（日本病理学会、日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会）宛てに委員の推薦を依頼したい。

[資料:専門委員会 5-0, 5-1, 5-2, 5-3]

川名敬委員長「関連する日本病理学会、日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会へ委員の推薦を依頼したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 絨毛性疾患取扱い規約第3版の改定を行うため、絨毛性疾患取扱い規約第4版編集委員会を立ち上げて、日本病理学会に委員の推薦を依頼したい。

[資料:専門委員会 6]

川名敬委員長「絨毛性疾患取扱い規約は長らく改訂されていないので編集委員会を立ち上げたい。絨毛性疾患は、放射線はあまり関係ないので病理学会に推薦を依頼したい。」

加藤聖子理事長「昨今、分子生物学的なものが入ってきているので、登録の手間はできるかもしれない。」

木村正監事「良いことだと思うが、登録が大変なので省力化を検討してもらいたい。」

川名敬委員長「婦人科腫瘍登録などの動きがあり、スリム化している部分もある。梶山広明先生にしてもらっている。」

梶山広明常務理事「もう少し後で審議しても良かったので、JESGOで進める上で本日協議事項としてあげさせてもらった。」

加藤聖子理事長「作るのも使うのも大変だが、エビデンスが出やすいようにお願いしたい。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### 3) 周産期委員会（板倉敦夫委員長）

(1) 「HTLV-1 母子感染予防対策マニュアル第2版」についてホームページに掲載した。

[資料:専門委員会 7-1, 7-2]

(2) 教育委員会用語集・用語解説集委員会より、用語集・用語解説集第5版の改定項目について諮問を受け、回答した。

(3) 医学会連合による領域横断的連携活動事業「多学会連携による慢性疾患患者の挙児希望を叶えるための横断的指針作成」へ、本会より委員の推薦を行った。

板倉敦夫委員長「東京医科大学の成瀬先生、名古屋大学の小谷先生にお願いした。」

(4) 専門委員会で開催した研究成果発表の方法について：

専門委員会での研究成果は委員会報告として、日産婦誌および学術集會時にポスター掲示はされているが、いくつかの課題で、その成果が学術論文として報告されている。この学

術論文を、本会会員がアクセスできる発表とすべきではないかとの意見があり、発表論文には「各委員会名を掲載すること」と、「JOGR 誌あるいはオープンアクセスジャーナルへの発表に限る」、或いは「望ましい」としたい。

**板倉敦夫委員長**「周産期委員会で研究公募をしたところ9件あった。中には2年間で成果が出にくいものがあり、できれば論文化してもらいたいと考えている。公募研究の成果発表についてオープンアクセスジャーナルは高騰していることもあるが、本会会員がアクセスできるようにしたいと考えており、「各委員会名を掲載すること」と、「JOGR 誌あるいはオープンアクセスジャーナルへの発表に限る」、或いは「望ましい」としたい。」

**加藤聖子理事長**「今までは JOGR 以外にも論文化してきたが、本会会員がアクセスできるようにしたいのが目的なのか。委員会名は Acknowledgement に書くこともあるが。」

**板倉敦夫委員長**「オープンアクセスなどで本会会員が閲覧できるようにしたい。委員会はタイトルが望ましいと思っている。」

**大須賀穰委員長**「良いことであり、もっともだと思ったが、会員が別刷りも希望したらもらう、と言うのはどうか。」

**加藤聖子理事長**「和文雑誌などで別に方法があると思うが、オリジナル論文としての方が望ましいだろうか。」

**板倉敦夫委員長**「オリジナル論文が良いと思う。」

**万代昌紀副理事長**「極力会員が目に触れるようにするのは良いと思う。JOGR が無料だし、JOGR を上げるためにも望ましいのではないかと思う。」

**加藤聖子理事長**「成果を論文化するのは各委員長に把握してもらいたい。」

**青木大輔監事**「専門委員会のルールがあるのでそれを書き換えるのが良いと思う。」

**加藤聖子理事長**「オープンアクセスが望ましい、で記載するので良いか。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### 4) 女性ヘルスケア委員会 (樋口毅委員長)

##### (1) 会議開催

令和5年度 第2回女性ヘルスケア委員会 (Web 会議)	8月21日
------------------------------	-------

(2) 『婦人科特定疾患治療管理料』算定のための研修に関する新入会員への周知について  
[資料：専門委員会 8]

**樋口毅委員長**「上記意見があればお願いしたい。」

**甲賀かをり理事**「医会と一緒にしているが、医会では承認されている。」

**加藤聖子理事長**「よろしく願います。」

##### (3) 書籍頒布状況 (7月31日現在)

	7月販売	累計販売数
低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲスチン配合薬 ガイドライン 2020 電子版付	56	6,531
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版	12	4,310
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版+電子版用 ID・PW 付	15	1,859
女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針	0	1,379

### Ⅲ. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

#### 1) 総務 (万代昌紀副理事長)

〔Ⅰ. 本会関係〕

##### (1) 会員の動向

- ① むた 牟田 いくお 郁夫 功労会員 (長崎) が令和5年6月30日にご逝去された。
- ② もちづき 望月 まっつと 真人 名誉会員 (兵庫) が令和5年7月31日にご逝去された。

(2) 第79回学術集会長候補者選定委員会委員について  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

[資料：総務 1]

##### (3) 「75年史小委員会」

###### ① 「掲載写真」の選定について

「総会・学術講演会写真第〇〇回～第〇〇回」、「アジア諸国との交流 (KSOG, TAOG, AOCOG)」、「日独シンポジウム」、「若手のリクルート (サマースクール、スプリングフォーラム、POP2)」、「理事会集合写真 (第2代～第5代理事長下各1枚)」

###### ② 「座談会」記事校正について

###### ③ 「挨拶文」ご執筆について

[資料：総務 2-1]

###### ④ 「装丁」について

[資料：総務 2-2]

久具宏司議長「歴史編と資料編はほぼ完成のためここには提示していない。座談会はほぼ完成、挨拶文はいただいております、写真がまだ必要。装丁は過半数になれば決めようと思っていたが、決まらなかった。上位2つで決選投票をしたい。」

##### (4) 「SRHRに関する学会連携諮問委員会」

###### ① 法務大臣への「提言書」提出について

共同親権に関する家族法改正に関して、法務大臣宛ての「提言書」を4学会連盟で作成した。「提言書」については9月1日、法務省において加藤理事長等により直接法務大臣へ提出した。

[資料：総務 3-1]

加藤聖子理事長「SRHRは産婦人科だけでは行い難いこともあり、4学会でSRHRに関する学会連携諮問委員会が設立された。離婚すると単独親権になっているが、状況によっては共同親権になっている。ただし、家庭裁判所で判断することとなっており、緊急時や家庭裁判所がDVではないと判断しても医学的にDVが疑われる場合など、医療を要するときに行えるようにすることを斎藤健法務大臣へ直接申し入れてきた。前向きに検討するということを言われたが、推進派と反対派とで議論がなされると思われる。横山良仁先生に頑張って頂いた。」

横山良仁理事「要望書の趣旨としては子供の利益のため、医療行為に関しては単独でできるようにしている。ただし、共同親権が反対と言うことではなく、我々も医療現場でも子供への医療提供のあり方や説明・同意プロセスなどについて再検討する、としている。」

加藤聖子理事長「マスコミにも注目されていると思われた。」

万代昌紀副理事長「がん生殖にも関わると思われる。」

##### ② キャビネット交代による委員の変更について (追認事項)

・**解委嘱**：リプロダクティブ・ヘルス推進委員会委員長 横山良仁先生（前キャビネット）

・**委 嘱**：セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (SRHR) 推進委員会委員長 水主川純先生（現キャビネット）

[資料：総務 3-2]

**万代昌紀副理事長**「こちらは承認事項である。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) 「生れてくるこどものための医療(生殖・周産期)に関わる『生命倫理について審議・監理・運営する公的プラットフォーム』設立準備委員会」の設置および委員について

[資料：総務 4]

**加藤聖子理事長**「前キャビネットからの先生は良くご存知と思うが、生命倫理などに関わる課題は学会単独で行ってきたが、これからは学会単独では難しいために公的プラットフォームを設置したいと考えている。前キャビネットの三上幹男先生、木村正前理事長にご尽力頂いてきた案件であり、これを形にするべく委員会を設立したい。本会から大須賀穰先生、谷口文紀先生、万代昌紀先生、三上幹男先生、小児科学会から1名、人類遺伝学会から1名、国立成育医療研究センターから3名、公開登録会から法学者2名、アドバイザーとして木村正先生、吉村泰典先生、元厚労省医政局長を委員と考えている。大須賀穰先生と谷口文紀先生は生殖医学会も兼ねており連携が進む。国立成育医療センターの方で女性の健康研究ナショナルセンターが要請されており、その意味合いも込めて成育医療センターの先生に委員になってもらっている。元厚労省医政局長は、自見はなこ先生からの推薦で政策に精通している。」

**鈴木直常務理事**「木村正前理事長、三上幹男前常務理事からのもので、20年前からの課題で総論は誰も反対しないが各論は誰もおこなって行くことができなかった。やっと規制が緩和されて具体的に動けるようになった。」

**大須賀穰副理事長**「文言の質問だが、『倫理について審議・管理・運営する公的プラットフォーム』とすると臓器移植をパッと思いつくので、そうではないということが分かるようにしたいと思う。」

**加藤聖子理事長**「生れてくるこどものための医療（生殖・周産期）に関わる公的プラットフォーム設立準備委員会」としたいと思う。」

**万代昌紀副理事長**「審議事項ですのでお諮りいただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) サブスペシャリティー学会の専門医数について

[資料：総務 5]

**万代昌紀副理事長**「産婦人科の専門医が減っているが、高齢の方が専門医機構の更新の際に更新しなかったことが想定されている。」

(7) 令和5年度決算の会計監査につき、中田公認会計事務所と契約した。監査報酬は、会計処理、決算業務に関する指導・相談を含めて、前年同額の年間200万円である。

[資料：総務 6]

(8) 山口産科婦人科学会からの要望について

[資料：総務 6-1~6-4]

**万代昌紀副理事長**「本会と全国の地方学会は業務委託契約を締結し、会員管理面でのサポートについては業務委託料を支払い、また、専門医制度委員会運営に係るサポートについては運営補助費という名目で手数料をお支払いしている。今年4月に山口産科婦人科学会に税務調査が入り、本件の「業務委託料」については法人税の対象になると指摘され、過去5

年に遡って法人税、県民税、市民税を支払ったとの連絡を受けた。またその際に、「業務委託料」ではなく「運営補助費」といった名目であれば法人税の対象とはならないとの言及があったとのことである。この件につき、公認会計士事務所、顧問弁護士と相談した結果、同様のケースがないかについて全国の地方学会に実態調査を行い、全国一律に同契約書の内容を見直すことを検討するのがよいとの結論に至った。」

**加藤聖子理事長**「山口県は山口大学医局内に地方学会事務局があり、税務署の税務調査が入ったとのことである。福岡県の事務局は医師会の中にある。」

**万代昌紀副理事長**「地方によって事情は異なるかもしれないので、地方連絡委員会の杉浦真弓先生に実態調査お願いしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 〔Ⅱ．官庁関係〕

### (1) 厚生労働省・こども家庭庁

#### ①会員周知依頼（ホームページに掲載済）

部署	内容	資料
こども家庭庁成育局母子保健課	令和5年台風第6号の影響による停電に伴う災害の被災者に係る妊婦健康診査等の各種母子保健サービスの取扱い等について	[総務7]

#### ②会員周知依頼

部署	内容	資料
新型コロナウイルス感染症対策本部、医薬・生活衛生局医薬安全対策課	新型コロナウイルス感染症における経口抗ウイルス薬（ゾコーバ錠 125mg）の使用にあたっての注意喚起に係る追加の情報提供（資料の活用の徹底及び相談窓口について）	[総務7-1]

**万代昌紀副理事長**「ゾコーバ錠については、妊婦には禁忌であるが使ってしまったということで周知したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### ③厚生労働省医政局医事課

医道審議会医師分科会医師臨床研修部会（8月2日開催）において「小児科・産科プログラム」の在り方の見直しを議論するにあたり、本会と小児科学会に意見を求められた。会議には本会から関沢明彦先生に出席頂き、中央専門医制度委員会が中心となって作成した資料によって、産科重点プログラムについての本会意見を説明頂いた。

[資料：総務8-1, 8-2]

**関沢明彦常務理事**「2010年度から産科重点プログラムが開始したが、2020年度から研修医の産婦人科研修が4週間必修になったために、産科重点プログラムの必要性について検討されている。大学病院は充足率が高く、プログラム修了者の約65%が産婦人科に入っている。プログラムについてアンケートを行ったところ、41%は現状の維持希望となっている。地方では充足率は高くないが、規模の小さな病院でも頑張っている病院はプログラムができるようになれば良いという意見があった。本会の意見としては産科重点プログラムの継続を希望すると説明した。会議の感じとしては維持の方向になるのではないかと思われる。」

**加藤聖子理事長**「プレゼンターが退出後にディスカッションがあり、審査委員の先生の中には厳しい意見を言う人もいたが、議長をはじめ好意的な意見が多数あった。」

**万代昌紀副理事長**「初期研修の産婦人科必修と産科重点プログラムとは別だ、ということである。」

④厚生労働省保険局保険課

全国の分娩を取り扱う産科医療機関等を対象に、出産費用の改定状況等について調査を行うにあたり、事前の説明会に加藤聖子理事長と亀井良政常務理事に Web 会議でご出席いただいた。また、出産費用の価格改定に係るアンケート調査の実施について、本会ホームページに掲載し会員に周知した。 [資料：総務 9-1, 9-2]

**加藤聖子理事長**「亀井良政先生と一緒に出席した。出産費用の一時金値上げと一緒に分娩費用も上がっており、世間では便乗値上げ、と言われているが、その真意について話が合った。結果は亀井良政先生の委員会から別途報告があると思う。」

**亀井良政常務理事**「内容に関しては後で議論したい。」

⑤厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課

8月30日(水)開催の「薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会」に出席いただく参考人推薦依頼があり、本会からは寺内公一先生にご出席いただいた。 [資料：総務 10]

⑥こども家庭庁成育局母子保健課

令和6年度母子保健対策関係概算要求の概要について、情報提供があった。

[資料：総務 10-1]

**万代昌紀副理事長**「こども家庭庁がどのようなことをしようとしているのかよくわかるので資料を参照ください。」

(2) 福島県

福島県知事より「県民健康調査」検討委員会委員の推薦依頼を受領し、周産期委員会で検討いただいた結果、再度、室月 淳 先生(宮城県立こども病院)にお引き受けいただいた。

[資料：総務 11]

(3) 日本学術会議

日本学術会議から、提言「倫理的課題を有する着床前遺伝学的検査 (PGT) の適切な運用のための公的プラットフォームの設置— 遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査 (PGT-M) への対応を中心に —」が発出された。 [資料：総務 11-1]

**鈴木直常務理事**「PGTに関して公的プラットフォームの設置準備委員会と連動する内容。」

**加藤聖子理事長**「日本学術会議からも同じ趣旨で発出されたことは喜ばしい。藤井知行先生はじめ学術の先生方には感謝申し上げたい。」

[Ⅲ. 関連団体]

(1) 日本医学会、日本医学会連合

①会員周知依頼

依頼元	内容	資料
日本医師会	ハーバード大学 T.H. Chan 公衆衛生大学院 武見国際保健プログラムのフェロー募集のお	[総務 12]

	知らせ	
厚生労働省健康局 結核感染症課	「感染症危機管理専門家(IDES)養成プログラム」採用案内 について	[総務 12-1]
厚生労働省医薬・ 生活衛生局監視指 導・麻薬対策課	令和 4 年度販売情報提供活動監視事業報告書 について	[総務 12-2]
日本医師会	令和 5 年度死亡時画像診断(Ai)研修会開催に ついて	[総務 12-3]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

②6月の日本医学会臨時評議員会において日本医学会長・副会長ならびに幹事の選挙が行われ、本会の木村正先生が幹事に選出された。任期は2025年6月の日本医学会臨時評議員会開催日まで。  
[資料：総務 13]

③日本医学会評議員および連絡委員、用語委員、用語代委員の選出について依頼があり、評議員に加藤聖子理事長、連絡委員には関沢明彦常務理事、用語委員には増山寿常務理事(教育委員会委員長)、用語代委員には永瀬智常務理事(教育委員会用語集委員長)をお願いすることとなった。  
[資料：総務 14]

④日本医学会協議会において、本会加藤聖子理事長と水主川純特任理事が総合司会を務める「第34回日本医学会公開フォーラム『女性医療を取り巻く課題』」(11月25日(土)開催)のプログラム案が承認された。  
[資料：総務 15]

加藤聖子理事長「SHRHに関して対面で行われる。」

⑤日本医学会連合より「学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針」を一部改正し、下記のウェブサイトに掲載した旨連絡があった。  
[資料：総務 15-1]  
[https://www.jmsf.or.jp/news/page\\_143.html](https://www.jmsf.or.jp/news/page_143.html)

万代昌紀副理事長「外科はこのカテゴリーに分けているようであるが、学会側がカテゴリーを把握してチェックするのは大変であろうと思う。」

⑥日本医学会連合より門田班臨床外科グループに係る研究公表時(学会発表、論文投稿)のルールについて一部改定の連絡を受領した。  
[資料：総務 15-2]

## (2) 予防接種推進専門協議会

①8月13日(日)に開催された第80回予防接種推進専門協議会代表会議の報告事項について  
[資料：総務 16-1～ 4]

川名敬理事「宮城悦子先生の資料の中にも掲載されている。」

②厚生労働省健康局長あてに提出する2つの要望書への本会の連名について

- ・新型コロナワクチン努力義務の妊婦明記に関する要望書
- ・15価肺炎球菌結合型ワクチンの早期定期接種化に関する要望書

[資料：総務 16-5, 16-6]

川名敬理事「新型コロナが5類になった後のコロナワクチンの妊婦接種について、手引きには妊婦の文言が無く、修正をしてもらいたいという要望で、本学会からの要望になる。肺炎球菌ワクチンについては子供の定期接種は13価であるが、13価ではカバーできないも

のが流行ってきている。海外では15冊がスタンダードであり、小児科と一緒に要望したいと思う。」

**万代昌紀副理事長**「①は妊婦さんも含まれるということを確認し明記して頂きたいと要望するもので、現場でもどうなのかと混乱している面もあり非常に重要だ。周知と共に記載いただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (3) 日本肥満学会

日本医学会連合 TEAM 事業・日本肥満学会・日本肥満症治療学会 合同企画シンポジウム「領域横断的な肥満症対策の推進に向けたワーキンググループ活動の現状と今後」での演者の推薦依頼を受領し、女性ヘルスケア委員会にて検討いただいた結果、樋口毅委員長にお引き受けいただいた。 [資料：総務 17]

### (4) 日本頭痛学会

日本頭痛学会とイーライリリー（株）が共同開発した「頭痛教育関連動画」の会員周知依頼を受領した。女性ヘルスケア委員会で検討いただいた結果、本会ホームページに掲載し周知することとしたい。 [資料：総務 18]

**万代昌紀副理事長**「一部協議事項になるが反対やコメントはないか。」

**加藤聖子理事長**「日本頭痛学会とイーライリリーからの動画は、樋口毅先生に見ていただき判断いただいた。」

**樋口毅理事**「一般の人にも分かり易いし、医師も忘れていた部分もあったと思う。為になるものであり、委員会内でも異論はなかった。」

**万代昌紀副理事長**「HPに掲載させていただく。他に異論があれば後でもお知らせいただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (5) 日本看護協会

「院内助産・助産師外来推進フォーラム」開催に係る有識者会議(8/3 Web開催)に出席依頼があり、本会より木村正監事にご出席いただいた。あわせてフォーラム開催にあたり後援名義の使用依頼を受領した。 [資料：総務 19-1, 19-2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (6) 日本小児神経学会

日本小児神経学会 小慢・指定難病に関する委員会 脊髄性筋萎縮症マススクリーニングワーキンググループ 委員長 佐久間啓先生より、本会から3月に提出した意見書に対する回答と修正された「脊髄性筋萎縮症に対する新生児マススクリーニングの手引き」が送付され、これを受領した。令和5年度第2回常務理事会において、静観するも賛成ではない旨伝達すべきとのご意見があった。 [資料：総務 20-1, 20-2]

### (7) 日本助産師会

「助産業務ガイドライン2019」の見直しに伴う、助産業務ガイドライン改訂検討特別委員会の委員の派遣依頼を受領し、周産期委員会で選定いただいた結果、永松健先生(国際医療福祉大学)にお引き受けいただいた。 [資料：総務 21]

(8) 日本医療安全推進学会

日本医療安全推進学会より、日本医療安全推進学会設立記念大会（9月16日・17日）への後援名義使用申請を受領した。 [資料：総務 22, 22-1, 22-2, 22-3]  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

[IV. その他]

(1) 野村総合研究所

こども家庭庁の令和5年度こども子育て支援推進調査研究事業「里帰り出産等の実態に関する調査研究事業」において、こども家庭庁、有識者・自治体担当者等を対象とした検討委員会の委員派遣依頼書を受領し、板倉敦夫先生にお願いすることとなった。

[資料：総務 23]

(2) 朝日新聞社

「女性の健康～リテラシーを高めてみんなが生きやすい社会へ」をミッションとしたThink W-Wellnessプロジェクトの一環として「産婦人科に行くことの大切さ」を伝えるためのデザイン作品を募るイベント「Think W-Wellness デザイン大賞」の開催にあたり、本会の後援名義の使用許可申請を受領した。経済的負担もないことから応諾した。

[資料：総務 24]

2) 会 計（田中守常務理事）

(1) 取引銀行の格付と預金残高について [資料：会計 1]  
田中守常務理事「特に大きな変動はない。」

3) 学 術（岡本愛光常務理事）

(1) 会議開催

健康・医療活動賞予備選考委員会	7月21日（金）～27日（日）（通信会議）
学術講演会評価委員会	8月10日（木）～24日（木）（通信会議）
教育奨励賞予備選考委員会	8月22日（火）
筆記試験問題評価委員会	8月28日（月）
令和5年度第2回学術担当理事会	8月29日（火）
令和5年度第2回学術委員会	8月29日（火）

(2) 令和5年度教育奨励賞候補者の選考について

・7月31日を締切として5名の推薦ならびに応募があった。教育奨励賞予備選考委員会（8月22日開催）にて選考を行った候補者について8月29日の学術委員会にて候補者の選考を行った。その結果を理事会に答申する。 [資料：学術 1-1, 学術 1-2]

【候補者】

・小谷 泰史（コタニ ヤスシ）君（近畿大学医学部 産科婦人科学教室、講師）  
「近畿大学医学部での10年間の教育活動 ～医学部生、研修医における産婦人科教育と産婦人科医師に対する内視鏡手術教育の実践」

- ・竹中 慎（タケナカ シン）君（国立研究開発法人 国立がん研究センター 東病院 産婦人科、医員／昭和大学 医学部 産婦人科学講座、兼任講師）  
「手術教育イノベーション：先端技術による学習効率化の取り組み」
- ・永易 洋子（ナガヤス ヨウコ）君（大阪医科薬科大学 産婦人科学教室、講師）  
「初学者に向けた遠隔超音波セミナーの発足と若手サポートメンバーの育成：地域を超えたネットワーク形成を目指して」

**竹中将貴主務幹事**「上記について承認していただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (3) 令和5年度健康・医療活動賞の選考について

- ・6月30日を締め切りとして5件（個人1、団体4）の応募があり、通信による予備選考委員会（7月21日（金）～7月27日）で2件の候補者・団体を決定した。8月29日の学術委員会でプレゼンテーションを行い決定した受賞候補者を理事会に答申する。

[資料：学術 2-1, 学術 2-2]

#### 【学術委員会の最終選考による候補者】

- ・個人：上田 豊（ウエダ ユタカ）君（大阪大学）  
「HPV ワクチンに関する学術的エビデンスの創出と自治体の子宮頸がん対策および母子保健事業に対する学術的支援」

#### 【それ以外に予備選考委員会にて選考された候補団体】

- ・団体：サンライズジャパンホスピタル産婦人科  
（代表：杉山彩子（スギヤマ サイコ）君）  
「カンボジアにおける初の日本式産婦人科立ち上げの挑戦」

**竹中将貴主務幹事**「上記について承認していただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (4) 他団体の特別賞推薦依頼について

- ①2023年度神澤医学賞候補者推薦依頼を受領し、理事および学術委員会委員に候補者推薦を依頼した。2名の推薦を受けた。学術委員会（担当理事ならびに委員）で現在選考を行っており、提出期限の都合上、選考結果をご一任いただきたい。

[資料：学術 3-1, 3-2]

**竹中将貴主務幹事**「学術担当理事及び委員11名で投票行う予定であったが、1名がCOIの関係で辞退し、10名で投票を行ったが、5対5で割れた。最終的に学術担当以外の先生方に投票を行って頂き決着したい。期限の関係上選考について委員会に一任にいただきたい。」

**加藤聖子理事長**「COIのあった先生の票はどうなったのか。」

**竹中将貴主務幹事**「今回は投票するのは望ましくないとして、投票結果を反映しないこととした。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ②公益財団法人川野小児医学奨学財団より「令和5年度小児医学川野賞」候補者推薦依頼を受領したので理事および学術委員会委員に候補者推薦を依頼した。提出期限の都合上、学術担当理事会に選考をご一任いただきたい。

[資料：学術 4]

**竹中将貴主務幹事**「上記について承認していただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) 学術講演会評価委員会からの答申について

- ・令和5年8月10日～24日に通信会議を開催し、第75回学術講演会の企画・運営・進行を中心とする内容に関する評価を行った。 [資料：学術5-1, 5-2, 5-3]

**吉田好雄常務理事**「現地開催と同時に来れない方にも現地参加しているような体制をとるなど非常に好評であった。コロナ明けで参加者も多かった。アンケートは参加者の4.3%から得た。東京フォーラム内の移動距離、自動翻訳機能の見にくさ、Wifi環境などの指摘があった。動画をオンデマンド配信して欲しいなどの意見があった。ポスター会場は音響、照明、時間が短いなどの意見があった。」

**加藤聖子理事長**「単位に関するクレームは無かったか。単位については専門医機構が関わっているの、関沢明彦先生にもお願いをしていきたい。」

**大須賀穰副理事長**「ポスターは掲示にしてディスカッションは別の場所で行う予定。」

**万代昌紀副理事長**「リアルタイムの配信は経費が掛かるが、どの程度視聴されていたのか。」

**矢内原臨幹理事長**「コロナで来れない人のためにリアルタイムにしたが、聴衆者からのディスカッションは殆どなく意見は少なかった。」

**木村正監事**「リアルタイムは非常に少ないというデータが載っている。」

(6) 筆記試験問題評価委員会からの答申について

- ・令和5年8月28日（月）に委員会を開催し、専門医筆記試験について、問題の難易度、内容、形式、問題数、分野別比率などを個別に評価した。本委員会からの答申は中央専門医制度委員会に提出し、同委員会で本答申に基づいて検討（削除問題の検討、再採点）が行われる。

(7) プログラム委員会関連 特になし

#### 4) 編集 (梶山広明常務理事)

(1) 会議開催

令和5年度第2回編集担当理事会 (WEB開催)	9月1日
-------------------------	------

**梶山広明常務理事**「雑誌のWeb化に関して、4月のアンケート結果では会員の2割の回答率で84%が賛成している。反対意見の8割の方が重要なお知らせは送って欲しいという結果であった。郵送は定例的な報告、会告の変更などを適宜郵送するというので現実的には意見を言う人はいなかった。今年は審議をすることを承認されているので、来年度に実際に承認されることになると思われる。定款記載の頒布を受ける権利とあるがこれは、Webでも良いか。」

**加藤聖子理事長**「前回の理事会で良いということが確認されている。」

(2) 英文機関誌 (JOCR) 投稿状況：(7月31日現在)

[資料：編集1]

	2021	2022	2023
Pending / Withdrawn	41	141	228
Accepted	436	266	80
Rejected	2123	1777	821
<b>Grand Total</b>	<b>2600</b>	<b>2184</b>	<b>1129</b>

**梶山広明常務理事**「ImpactFactor1.7 くらいであるが 2.0 くらいにしたいと考えている。委員会企画の調査などの掲載を周知したい。委員会企画の論文を JOGR に掲載することを広報で発信してもらいたい。和文誌で目次は郵送して欲しいという意見もあり、目次が無いと何がトピックか分からないというのがある。広報とも連携をしたい。JOGR は AFOFOG のオフィシャルジャーナルということもあり、来年は 50 周年になる。50 周年の記念ワークショップをして欲しいと言われており、渉外で編集の方で企画することとなった。」

**加藤聖子理事長**「AFOFOG は調べると 50 周年ではなく、50 巻記念と言うことらしい。」

**万代昌紀副理事長**「キラーコンテンツになるのは Introductoin や M&M に引用されるような論文が引用されやすいそうなので、本会委員会の論文は良いと思われる。m3 などからもアクセスできるようになるといいのではないか。」

**木村正監事**「目次などをメールで送るのや Self citation を勧めるという方法もあると思う。」

**大須賀穰副理事長**「1 行メッセージなど工夫して広報するときに引用しやすい表を作ると引用されやすい。」

**加藤聖子理事長**「JOGR は Self citation が少ないといわれている。工夫して頂きたい。」

(3) 和文機関誌への同梱依頼について

・11 号：日本医療機能評価機構より

[資料：編集 2]

「産科医療補償制度ニュース第 14 号」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 5) 渉 外 (大須賀穰副理事長)

(1) 会議開催

第 1 回若手国際交流プログラム小委員会	8 月 8 日 (火)
第 2 回渉外委員会	9 月 1 日 (金)

(2) 2024 年表彰の海外名誉会員候補者推薦について

[資料：渉外 1]

**大須賀穰副理事長**「Thakar 氏を推薦したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 7 月 7 日、FIGO Council meeting (Web 開催) に本会より大須賀穰副理事長が出席し、本会の紹介を行った。

[資料：渉外 2]

(4) XXIV FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (FIGO 2023、10 月 9-12 日、於：フランス パリ)について

① FIGO General Assembly (10 月 10 日、12 日)に本会より加藤聖子理事長、大須賀穰副理事長、甲賀かをり理事、木村正監事、森繭代渉外主務幹事、および FIGO Regional Trustee Asia Oceania 候補の落合和徳名誉会員が出席の予定である。

② FIGO Trustee and Council Elections 2023 について

[資料：渉外 3]

**大須賀穰副理事長**「FIGO Regional Trustee Asia Oceania 候補として、落合和徳名誉会員を推薦することについて、承認されたい。」

**加藤聖子理事長**「一任で良いでしょうか。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

③FIGO-WATOG One World Exchange への寄附について [資料：渉外 3-1]  
大須賀穰副理事長「今回は日本円にして40万円程度のものを日本産科婦人科学会より寄付する。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

④ FIGO Women's Awards 2023 の候補者として本会より推薦した杉浦真弓理事の受賞が決定した。  
大須賀穰副理事長「上記報告」  
杉浦真弓常務理事「ありがとうございます。」

(5) AFOG Congress 2024 (5月16-20日、於：韓国 釜山) にて表彰の MIZUNO-RATNAM YOUNG GYNAECOLOGIST AWARD (YGA) 候補者募集に応募のあった3名を本会より AFOG へ推薦の予定である。 [資料：渉外 4]

(6) AFOG Congress 2026 にて表彰の Fellowship 推薦について [資料：渉外 5]  
落合和徳アドバイザーを推薦の方向であったが、Executive Board member の推薦不可により、推薦を見送った。

(7) AFOG Congress 2028 開催地立候補の見送りについて [資料：渉外 6]  
大須賀穰副理事長「日本開催を韓国、台湾が応援することを内々に決めていたが、財政面等々厳しい点があつた。その中で台湾が先に2028年に開催することを希望してきたため、日本の立候補を見送りすることにした。」

(8) 6月12~14日、ロンドンにて開催の RCOG World Congress 2023 に、本会より木村正理事長(当時)、大須賀穰渉外委員長、若手医師3名(東京大学 平岡毅大医師、慶應義塾大学 吉村拓馬医師、順天堂大学 瀬尾瑛美医師)を派遣した。会期後、6月15日に木村正理事長(当時)、および若手医師3名が Oxford 大学を訪問し、発表を行った。 [資料：渉外 7]

(9) DGGG 2024、RCOG 2025 へ派遣の若手医師募集を開始した。(募集〆切：2023年9月26日) [資料：渉外 8]

(10) KSOG 2023 (11月10-11日、於：韓国ソウル) に於ける J-K-T Exchange Program について [資料：渉外 9]  
本会より役員3名(加藤聖子理事長、増山寿理事、木村正監事)、メンター1名(井平圭幹事)、日韓台 Joint Conference スピーカー3名(信州大学 宮本強医師、京都大学 最上晴太医師、東京大学 原田美由紀医師)、および若手医師5名(京都大学 稲山嘉英医師、順天堂大学 平井みつ子医師、昭和大学 柱本真医師、福岡大学 石田倅子医師、奈良県立医科大学 三宅龍太医師)を派遣の予定である。

(11) 本会と The Obstetrical & Gynecological Society of Singapore (OGSS) との Exchange Program により、OGSS から指名を受けた馬場長教授(岩手医科大学)、および木須伊織助教(慶應義塾大学)を 12th Singapore International Congress of Obstetrics and Gynaecology (SICOG 2023、8月25-27日、於：シンガポール) にスピーカーとして現地派遣した。

(12) JICA 草の根技術協力事業 カンボジア「女性のヘルスプロモーションを通じた包括的  
子宮頸がんサービスの質の改善プロジェクト」について [資料：渉外 10]

11月に大須賀穰渉外委員長、森蘭代渉外主務幹事、芳川修久幹事、藤田則子医師（長崎大  
学）、神田未和助産師（国立国際医療研究センター：NCGM）、竹内理恵医師（国際医療福祉  
大学）、春山怜医師（NCGM）をプノンペンに派遣の予定である。

(13) FIGO Contraception Mapping Project について、FIGO のインタビューにご対応いた  
だく先生の推薦を女性ヘルスケア委員会に依頼した。 [資料：渉外 11]

## 6) 社 保（永瀬智常務理事）

### (1) 会議開催

第2回社会保険委員会	11月28日（火）予定
------------	-------------

### (2) 本会からの委員委嘱について

#### 【外保連】

- ・実務委員会副委員長、手術委員会委員、手術医療材料・医療機器 WG 委員、広報委員会委員：西井修副委員長
- ・手術委員会委員、手術コーディング WG 委員、総務委員長：甲賀かをり委員
- ・処置委員会委員：杉下陽堂委員
- ・検査委員会委員、検査生体検査コーディング WG 委員、検査・内視鏡 AI 診療作業部会委員：市塚清健委員
- ・検査画像診断試案作成 WG 委員：倉澤健太郎委員
- ・処置コーディング WG 委員：西洋孝委員
- ・麻酔委員会委員、全身麻酔 WG 委員：牧野真太郎委員
- ・医療技術の新しい評価軸検討 WG 委員：光田信明委員
- ・医療技術の新しい評価軸検討 WG オブザーバー委員（ロボット支援下手術）：万代昌紀委員
- ・規約委員会委員、検査医療材料 WG 委員：宮崎亮一郎委員

#### 【内保連】

- ・女性診療科関連委員会委員長、IC 委員会委員：西洋孝委員
- ・委員：橋口和生委員、春日義史委員、小川真里子委員
- ・遠隔医療関連委員会委員：田丸俊輔委員

#### 【日本医師会疑義解釈委員会】

- ・委員：西井修副委員長

#### 【日本産婦人科医会医療保険委員会】

- ・委員：永瀬智委員長、徳永英樹主務幹事

(3) 令和6年度診療報酬改定提案について、8月4日に実施の厚労省ヒアリングに本会より永  
瀬智社保委員長、西井修副委員長、徳永英樹主務幹事、および提案書記載者の寺井義人教  
授（神戸大学）が出席し、以下の2項目の説明を行った。

- ・子宮悪性腫瘍手術（広汎切除）（ロボット支援）
- ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術適応拡大と増点

その際、本会より提案の「周産期メンタルヘルス・カウンセリング料」について厚労省より質問を受けた。

また、後日、本会より提案の「流産検体の染色体検査」について厚労省の追加質問票を受領し、これに回答した。

**永瀬智常務理事**「ロボットは好意的であった。周産期メンタルヘルス・カウンセリング料は具体的な数字を求められた。」

(4)カルボプラチンの適応拡大の要望について **[資料：社保 1]**

**永瀬智常務理事**「静脈投与だけの保険適応であるが腹腔内投与の予後が良かったというデータが出たので腹腔内投与に関して保険適応を目指して製薬会社にも動くように要望した。」

(5)坐薬基剤（医薬品添加物規格 ハードファット）ホスコ H-15、ホスコ E-75 に関する企業からの依頼について **[資料：社保 2]**

**永瀬智常務理事**「医療用医薬品だとレギュレーションが大きくて安定供給が難しいので、医療用医薬品ではなく「医薬品添加物規格」又は「物」としてであれば安定供給が可能となる。」

(6)企業から依頼を受けた安定供給継続の要望について

① カルボプラチン注射液製剤、シスプラチン注射用製剤 **[資料：社保 3, 社保 4]**

**永瀬智常務理事**「日医工のものであり専門委員会にかけている。」

② エストラナーテープ 0.09 mg、同 0.18 mg **[資料：社保 5]**

**永瀬智常務理事**「久光製薬株式会社のものであり、これも専門員会にかけている。」

③ フラジール錠、卵巣ホルモン注射剤、リトドリン塩酸塩点滴静注液製剤、ヒト尿由来ゴナドトロピン製剤 **[資料：社保 6, 7, 8, 9]**

④ プレマリン錠 0.625mg（一般名：結合型エストロゲン） **[資料：社保 10]**

⑤ インドシアニングリーン（ジアグノグリーン） **[資料：社保 11]**

⑥ ゴナドトロピン製剤（rFSH） **[資料：社保 12]**

**永瀬智常務理事**「不採算があるので安定供給を要望したい。」

**板倉敦夫委員長**「学会が要望を出すのに違和感が議論されているが、基本は薬剤が産婦人科領域において必要不可欠なものであるという事を表明すればよいと思う。」

**永瀬智常務理事**「値段を決めるものではなく安定供給を要望するものである。」

本件③～⑥について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7)徐放鉄剤フェロ・グラデュメット錠に関する企業からの依頼について **[資料：社保 13]**

**永瀬智常務理事**「製造元のイギリスの工場が閉じる。他の工場が引き継がなかったので2年間かけて供給停止になる。」

(8)日本医師会疑義解釈委員会より、医療機器・体外診断用医薬品の供給停止予定品目（05 疑 2031、05 疑 2131）、および医薬品の供給停止予定品目（05 疑 2232）の検討依頼を受領し、本会理事、および社保委員による検討結果を回答した。

(9) 抗 HBs 人免疫グロブリン筋注の安定供給に関する要望書提出の依頼について

[資料：社保 14]

## 7) 専門医制度（関沢明彦常務理事）

### (1) 日本専門医機構関連

#### ① 会議開催

日本専門医機構 定時社員総会	6月30日
日本専門医機構とのメスを置いた外科医に関する面談	7月11日
基本領域学会連携 Web ミーティング	8月31日
日本専門医機構 第4回「専門研修プログラム委員会」「研修検討委員会(プログラム等)」合同会議	9月20日【予定】

#### ② 日本専門医機構からの 2024 年度臨床研究医コースの募集について

東京医科大学病院から募集の申請があり、日本専門医機構に承認された。

同コースの専攻医募集は9月1日正午～9月22日正午である。 [資料：専門医 1-1, 1-2]

#### ③ 厚生労働省医政局医事課からの令和 4(2022)年度の厚生労働大臣から学会への要請に対する

令和 5(2023)年度の回答・経過報告について

[資料：専門医 2]

関沢明彦常務理事「実効性のある専攻医の指導体制の確保等研修環境の充実について、専攻医の育児・介護等への配慮について記載した。」

### (2) サブスペシャルティ関連

#### ① 会議開催

日本専門医機構 サブスペシャルティ領域専門医制度についての説明・意見交換会	7月21日
第4回サブスペシャルティ領域連絡協議会 [資料：専門医 3-1～3-2]	8月4日
日本専門医機構 第1回機構認定サブスペシャルティ領域懇談会	8月29日

関沢明彦常務理事「サブスペ専門研修細則改定の要点は、

- ・ 制度運用にあたり専門医機構の役割、基本領域連絡協議会、領域専門医検討委員会の役割を明確化
- ・ サブスペシャルティ領域専門医制度の全体像に立脚した制度設計
- ・ 複数の基本領域からなるサブスペシャルティ領域専門医制度のコンセンサスである。

カテゴリー分けになり

カテゴリー1 機構が指定する領域

カテゴリー2 連絡協議会が指定（申請）する領域

カテゴリー3 連絡協議会が認定する領域

に分類される。

カテゴリー化することで、機構と基本領域連絡協議会の役割分担が明確となり、サブスペ専門医制度運営上の利便性の向上と効率化の促進が期待される。

- ・ 日本専門医機構と基本領域連絡協議会の役割分担について

・今後の予定について

・産婦人科領域の4つのサブスペの申請カテゴリについて検討中である。」

**大須賀穰副理事長**「カテゴリ分類が不明瞭であり、今後の対応に苦慮する。」

**関沢明彦常務理事**「産婦人科4領域のうち母体胎児のみはカテゴリ1で決まっている。

他の3領域については、婦人科腫瘍はカテゴリ1を選択しているが、2か3に採用される可能性が高いと考えている。どのカテゴリで提出するか相談しながら進めたい。」

**大須賀穰副理事長**「先方の選考の結果から事後別のカテゴリに変更することも選択肢と  
考えてよいか。」

**関沢明彦常務理事**「それもあるものとするが、各サブスペ学会の先生方と相談しながら  
検討したい。」

②日本産科婦人科学会サブスペシャルティ領域連絡協議会 構成員について

[資料:専門医4]

③サブスペシャルティ領域の指定に関する日本専門医機構への要望書について

[資料:専門医5-1~5-2]

### (3) 学会専門医関連

#### ①会議開催

第2回中央専門医制度委員会、全国地方委員会委員長会議	6月25日
第1回専門医関連システム小委員会	7月18日
試験実行委員向けの専門医認定二次審査事前WEB説明会（東京会場）	7月18日
試験実行委員向けの専門医認定二次審査事前WEB説明会（大阪会場）	7月19日
第3回中央専門医制度委員会	9月17日【予定】
産婦人科研修管理システムリニューアルに関する統括責任者向け運用説明会	9月19日【予定】

②2023年度専門医認定二次審査は東京会場（日本都市センター）と大阪会場（千里ライフサイエンスセンター）にて、7月22日に筆記試験（東京会場286名、大阪会場230名）、23日に面接試験（東京会場255名、大阪会場200名）を実施した。

③中央専門医制度委員会委員・研修委員会委員に鈴木幸雄先生（コロンビア大学産婦人科婦人科腫瘍部門 博士研究員／横浜市立大学大学院産婦人科学講座）を追加で委嘱したい。

**関沢明彦常務理事**「年内はWeb参加されるとのことで承認頂きたい。」

**加藤聖子理事長**「会議での発言を聞いていても鈴木幸雄先生には入ってもらいたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (4) 専門医関連システム関連

①システム刷新により、研修管理システムは10月2日正午にリニューアルを予定しているが、リニューアル作業に伴い、以下日程にて産婦人科研修管理システムを停止する。  
停止期間：2023年9月20日正午～2023年10月2日正午

②新研修管理システムを10月2日にリリースする予定であるが、新システムリリース後の問合せで旧システムデータも確認する可能性があるため、確認用に旧システムを11月までの2か月間、本部事務局だけが利用できるようにする。

延長に伴う追加費用：26万円（13万円/月×2か月分（今期））

③日本産科婦人科学会専門医研修出席証明（学会単位）の申請・審査が2023年度で終了することに伴い、研修会開催申請システムの学会単位の付与および審査終了に伴うシステム改修が必要となる（費用：30万円（今期））

## 8) 臨床倫理監理（鈴木直常務理事）

### (1) 会議開催

第1回がん・生殖医療施設認定小委員会（WEB）	7月31日
第1回PGTに関する継続審議小委員会（WEB）	8月7日
第1回定款・見解改定検討小委員会（WEB）	8月7日
第2回臨床倫理監理委員会（WEB）	8月16日
第1回登録・調査小委員会（WEB）	8月17日

### (2) 本会の見解に基づく諸登録（令和5年7月31日現在）

ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録	125研究（49施設）
体外受精・胚移植に関する登録	632施設
ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録	632施設
顕微授精に関する登録	607施設
医学的適応による未受精卵、胚（受精卵）および卵巣組織の凍結・保存に関する登録	186施設
提供精子を用いた人工授精に関する登録	16施設

### (3) 重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査に関する審査小委員会報告

- ・着床前遺伝学的検査に関する申請・認可について [資料：臨床倫理 1, 2]

### (4) 不妊症および不育症を対象とした着床前遺伝学的検査に関する審査小委員会報告

- ・PGT-A・SR 見解細則改定後の施設審査状況について [資料：臨床倫理 3]

### (5) がん・生殖医療施設認定小委員会報告

①妊孕性温存療法実施医療機関（検体保存機関）、温存後生殖補助医療実施医療機関審査状況・承認施設について [資料：臨床倫理 4]

- ・妊孕性温存療法実施医療機関：158施設
- ・温存後生殖補助医療実施医療機関である妊孕性温存療法実施医療機関：140施設  
（うち、生殖医療専門医が不在のため、今年度いっぱいを目途に暫定施設として取り扱う予定の施設：6施設）
- ・妊孕性温存療法は実施しない温存後生殖補助医療のみの実施医療機関：2施設

②暫定施設の定義の見直しについて

生殖医療専門医不在の施設における暫定施設としての承認期間(現状 1 年)について、親委員会のテーマである日本生殖医学会の専門医の件との連動する案件でもあり、その動向を注視しつつ、今後も検討していく。

**鈴木直常務理事**「国からは患者さんの不利益にならないように緩やかに対応するように指示されている。」

③施設認定規約について

3年後を目途として、認定がん・生殖医療ナビゲーターの常勤が必須となっており、また施設ごとの年間症例数5例以上必要の、それぞれの条件について継続して検討していく。

同様に、本会認定施設の事例数を確認し、地域制も考慮して検討する。

**鈴木直常務理事**「施設認定規約について注意喚起していく。次回第76回学術講演会の中でも小委員会報告として情報提供を行っていく予定である。」

④仮承認施設への指示

⑤温存後不妊治療施設登録の再指示

(6) 生殖補助医療の実施登録施設における実施責任者の要件について [資料：臨床倫理 5]  
**鈴木直常務理事**「日本生殖医学会と合同の委員会の設置をお願いしていく。」

(7) ART 実施責任者の専門医資格失効について

- ・「ART 実施登録施設における実施責任者は産婦人科専門医更新を自分の責任のもと確実に行うことの確認書」の取得状況：8月30日現在、対象施設 610 施設中、591 施設から取得(取得率 97%)

**鈴木直常務理事**「19 施設から確認書が戻ってきていない。救済措置が無いことから再度連絡をとる。」

- ・9月末が専門医の更新期限なので、専門医の更新を忘れ実施施設になれず ART 施設の登録が抹消されることが無いよう注意喚起している。

(8) NIPT 厚生労働省専門委員会と医学会運営委員会について

- ・NIPT 厚生労働省専門委員会：2024年3月まで三上幹男前委員長、2024年4月から鈴木委員長が担当。
- ・日本医学会 NIPT 運営委員会：2023年8月まで三上幹男前委員長、2023年9月から鈴木委員長が担当。

(9) NIPT に関して、認可施設から送られてきた臨床研究のまとめの合本について

**鈴木直常務理事**「50冊ある。既に PDF 化している。本件は本会の費用で日本医学会が製作したのもでもあり、廃棄についてまた理事会で報告する。」

(10) 日本専門医機構認定専門医の資格の停止について [資料：臨床倫理 6-1, 6-2]

- ・懲罰としての会員資格停止の場合には、『「専門医資格の停止」に相当すると判定した』と本会から機構に進言する。

鈴木直常務理事「内規を変更することに対しご意見を頂きたいが、いかがか。」

万代昌紀副理事長「本会の会員資格は失っても専門医機構の専門医は維持されるということか。」

関沢明彦常務理事「専門医機構の専門医は申請と更新の際に会員であることが求められる。更新までは会員ではなくても専門医であり得る。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(11) 6月29日に友納理緒代議士、自見はなこ代議士、7月21日に元医政局長、8月3日にこども家庭庁成育局母子保健課長、8月3日に国立成育医療研究センターと面会した件について

(12) 重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査に関する審査小委員会 他学会からの推薦委員変更について [資料：臨床倫理 7]

鈴木直常務理事「山本英子先生（東京女子医大）→右田王介先生（聖マリアンナ大）への変更。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(13) 第三者提供配偶子について

(14) 東京都の令和5年度 卵子凍結関連事業に関して

## 9) 教育（増山寿常務理事）

### (1) 会議開催

令和5年度第3回教育委員会	8月22日（WEB開催）
令和5年度第1回用語集・用語解説集作成委員会	8月4日（現地開催）
令和5年度第1回医学教育活性化委員会	8月9日（WEB開催）
令和5年度第2回用語集・用語解説集作成委員会	8月28日（WEB開催）

### (2) 書籍頒布状況（7月31日現在）

	7月販売数	累計販売数
用語集・用語解説集改訂第4版（書籍版）	6	1,219
用語集・用語解説集改訂第4版（電子版付）	4	1,385
専門医試験例題と解説補遺⑥	21	1,604
2021年度専門医筆記試験過去問題・解説集	25	1,114
2022年度専門医筆記試験過去問題・解説集	49	730
産婦人科専門医のための必修知識2022	43	1,274

### (3) 専門医試験作成委員会

2024年度試験問題作成委員の委嘱を進め、10月に第1回全体会議＋分野別会議を予定している。

### (4) 用語集・用語解説集作成委員会

2025年4月の第5版発刊に向けて、新規掲載用語の候補選出のため、各領域で検討会議を行っている。8月4日に学会事務局で対面会議を開催し、8月28日にWebでコアメンバー会議を実施した。

(5) 産婦人科研修の必修知識編集委員会

次版の改訂内容について検討を行っている。

(6) 医学教育活性化委員会

8月9日に第1回会議をWeb開催し、2年間の活動報告と今後のビジョンについて議論した。FD（ファカルティ・ディベロップメント）の実施等を推進していくこととなった。10月19日に第2回会議（ハイブリッド開催）を予定している。

(7) その他

日本医学会からの依頼を受け、用語委員に増山寿教育委員会委員長、用語代委員永瀬智用語集・用語解説集委員会委員長を選出した（任期：2023年7月から2025年6月まで）。

## 10) 地方連絡（杉浦真弓常務理事）

(1) 地方連絡委員会の在り方に関するアンケート調査について

各地方連絡委員および各ブロック代表宛てに、地方連絡委員会の今後の在り方を検討することを目的としたアンケート調査をおこない、対象52名中38名の先生よりご回答頂いた。集計結果を基に、今後本委員会の活動方針を検討する。

[資料：地方連絡 1-1, 1-2]

**杉浦真弓常務理事**「理事長の考えもあり現在の地方連絡委員会の活性化をしたいことでアンケート調査をした。地方連絡委員会の必要性はほとんどの方が感じているが、一方向性ではなく双方向性にしたいと半分以上の方が考えている。開催頻度や開催方法についても意見があった。あと議事録がアップされたときに一斉メールが欲しいという意見があった。」  
**加藤聖子理事長**「委員会で審議していただき、どのように取り入れるかは考えて欲しい。加えて業務委託費の件について調査してもらうため、またお願いいたします。」

## IV . 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

### 1) 広報委員会（吉田好雄常務理事）

(1) ホームページについて

- ・ ホームページアクセス状況について

[資料：広報 1]

学会ホームページを整理し見やすくしていくにあたり、各委員会がそれぞれに掲載している内容を一度見直し、必要に応じて修正・削除して頂けないでしょうか。

**吉田好雄常務理事**「HPの整理をしていただきたい。」

- ・ ホームページサーバのサポート終了に伴う移行について

現在利用しているセコム製のホームページサーバの“Linux7”サポート終了（2024年6月）に伴い、新しいサーバ“Linux8”への移行作業を10月頃より進める。なお、移行

にかかる費用はホームページ経費で計上している委員会予算にて行う。

## (2) 女性の健康週間に関する小委員会

### ・協賛企業について

2024年3月に予定している女性の健康週間に協賛依頼をおこなう企業について、日経よりリストが来ており、下記企業について協議したい。

MSD 株式会社：HPV ワクチン

グラクソ・スミスクライン株式会社（GSK）：HPV ワクチン

シミックホールディングス：子宮頸癌検診自己採取キット

Mederi 株式会社：ピルオンライン診療サービス

アンファー株式会社：男性用妊活サプリ

**吉田好雄常務理事**「MSD 株式会社とグラクソ・スミスクライン株式会社が HPV ワクチンについて協賛することをご審議いただきたい。」

**宮城悦子特任理事**「協賛自体は構わないと思う。COI の提示が重要と思われる。」

## (3) HUMAN+冊子の販売状況について

## 2) 医療制度検討委員会（亀井良政常務理事）

(1) 厚生労働省保険局医療課と面談（8月10日）を行い、出産費用の保険適用化に向けた検討（予備調査）を行う研究班（班長：早稲田大学 野口晴子教授（専門：医療経済学））の委員の人選について相談があり、本会から谷川原 真吾（タニガワラ シンゴ）先生（医療法人社団スズキ病院 スズキ記念病院）を推薦することとなった。

**亀井良政常務理事**「地方で事情の分かっている先生にお願いすることとした。また、出産費用の保険適応化については、日本産婦人科医科と、日本産科婦人科学会が揃って反対するのであれば、保険化は見送ることも考えるが、一枚岩ではないのではないかと見受けられる。との話があった。」

(2) 出産費用の見える化試算調査の回答状況について

(3) 厚生労働省保健局保険課より出産費用の見える化ウェブサイトに対するパブリックコメント実施に関する周知依頼を受領したため、本会 HP のお知らせに掲載した。

[資料：医療制度検討 1]

## 3) 災害対策・復興委員会（井籠一彦委員長）

### (1) 会議開催

第 6 回 PEACE システム刷新 WG（Web 開催）	8 月 14 日（月）19:00～20:00
第 1 回災害対策・復興委員会（Web 開催）	8 月 25 日（金）16:30～18:30

(2) 7月～8月に発生した災害への対応

① 7月3日～5日の九州地方豪雨：理事長より九州地方の大学教授へ情報提供の依頼が行

われ、委員会からも被災地域の災害対策都道府県担当者へ被災状況等の情報共有を依頼した。被災状況の監視を行っていたが、分娩施設に被害は無く、PEACE 掲示板等の利用もなかったことを確認した。

② 7月9日～11日の九州地方豪雨：被害が多い4県（福岡、佐賀、大分、山口）の大学病院教授などへ被災状況の確認と PEACE への入力依頼を行うとともに、一斉配信にて被災地域の入力依頼を行った。被災状況の監視を行っていたが、数施設に浸水・停電の被害はあったものの、掲示板も含め本会に支援の要請等はなかったことを確認した。

③ 7月15日～16日の秋田県豪雨：委員会からも被災地域の災害対策都道府県担当者へ被災状況等の情報共有を依頼した。担当者より秋田県のメーリングリストで PEACE への入力依頼を行ったとの報告があった。秋田大学が一時的に夜間救急受入れ停止になったが翌日に解消した。一方で秋田市内の中通総合病院が冠水し電気系統が被害を受けて復旧の目処が立たず、周りの病院で分娩対応を行なっていることが報告された。雨がおちつくまで経過を確認し、学会への支援要請もなく、PEACE 掲示板等の利用もなかったことを確認した。

④ 8月上旬～中旬の台風6号および台風7号：委員会メンバーに連絡を取り、適宜被害状況の確認を行い情報共有が行われた。台風6号において西日本を中心に線状降水帯の発生があったが、分娩施設に被害はなかったことを確認した。和歌山県の周産期 LINE で PEACE への入力依頼を行った。委員会メンバーより九州や鳥取県の情報も共有した。

(3) PEACE 訓練時の利用申請：12件

(4) 日本周産期・新生児医学会学術集会での災害委員会企画（7/9開催）に前主務幹事の泉谷知明委員が本会の活動について講演を行った。

(5) 災害時小児周産期リエゾン協議会総会（7/11開催）にて、牧尉太委員より本会の活動報告が行われた。

(6) 第76回学術講演会での本委員会の委員会企画を検討していく。

**井篁一彦委員長**「PEACE の刷新状況を含めて案を作成中である。」

(7) PEACE システム刷新について

**[資料：災害対策1]**

**津田尚武主務幹事**「PEACE 刷新ワーキンググループとして5つの機能を追加する必要が出てきた。

- ・施設側と支援者側の区分の明確化、
- ・PEACE 入力率を上げる機能を追加（簡便なログイン・施設属性に応じた入力等）、
- ・物資支援、搬送支援の依頼、状況把握をリアルタイムに行える機能の追加、が必要と確定している。

検討中として、

- ・発災時に本部とリエゾン間で迅速な意見交換の場となるよう掲示板機能を刷新、
- ・EMIS や他の情報システムとのデータ連携、

がある。そのための予算を計上したい。2545万の期初予算に追加させていただきたい。ベンダーは掲示板機能についてコンペを予定している。」

井篁一彦委員長「本日承認いただければ来週からでも刷新作業に入れればと考えていたが、掲示板の機能についてベンチャー企業のシステムを現在のフューチャーインスペース株式会社のシステムに組み入れることで安くいけると考えていたが、フューチャーインスペース株式会社に掲示板も開発してもらい PEACE システムと統一した方が良いとの意見もあり、検討することを承認いただきたい。次回の 10 月 27 日の常務理事会で最終予算案について承認を頂き、PEACE 刷新を開始したい。」

加藤育民理事「分娩施設がリアルタイムに分かるようになっているのか。」

津田尚武主務幹事「周産期の広場と紐づいており毎年更新し、原則反映している。途中変更はずれれることもある。」

加藤聖子理事長「EMIS との連携を進めるにあたり、国との連携を綿密に行い、今後の予算の捻出や刷新内容も含め、住み分けを判断してもらいたい。」

津田尚武主務幹事「D-MAT が管理している。」

増山寿理事「産婦人科医会の情報を取り込むことになっている。」

加藤育民理事「周産期の広場で継続するのは難しい。PEACE がしっかりできるのを期待する。」

増山寿理事「これまでのデータは周産期でアーカイブしていくことで決まっている。」

井篁一彦委員長「平時に最新情報の入力率の上がる方法を検討している。」

加藤聖子理事長「災害対策は、本来は国がやるべきことと考える。」

木村正監事「EMIS と連携しても誰が見るのか責任者をしっかり決めておかないといけない。」

津田尚武主務幹事「災害訓練等で問題となるのが、周産期リエゾンには PEACE に入力することが多く、EMIS に入力していない現状がある。EMIS と PEACE との情報を連携させることによりこの点を改善したいと考えている。」

本件、掲示板機能について 2 社を候補として検討することにつき、全会一致で承認された。

#### 4) 診療ガイドライン運営委員会（横山良仁学会側調整役）

##### (1) 会議開催について

令和 5 年度第 1 回診療ガイドライン運営委員会（WEB 開催）	7 月 5 日
第 1 回診療ガイドライン産科編 2026（WEB 開催）	8 月 24 日
第 1 回診療ガイドライン婦人科外来編 2026（WEB 開催）	9 月 5 日【予定】
第 2 回診療ガイドライン産科編 2026（ハイブリッド開催）	9 月 21 日【予定】

##### (2) 2020 ガイドライン販売状況

###### ① 「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2020」頒布状況について（7 月末日現在）

	7 月販売数	累計販売数
書籍版(電子版付)	10	16,737

###### ② 婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編 2020」頒布状況について（7 月末日現在）

	7 月販売数	累計販売数
書籍版(電子版付)	11	10,874

横山良仁学会側調整役「これが 2020 年版の最終販売結果となる。」

##### (3) 診療ガイドライン 2023 改訂版について

①「産科編」および「婦人科外来編」を8月に刊行し、WEB販売を開始した。  
横山良仁学会側調整役「8月28日に発刊販売開始された。」

②今後1年以内を目途に「ガイドライン講習会」と「解説講演会」の開催を検討している。  
横山良仁学会側調整役「解説講演会は次回第76回の学術集会で予定している。ガイドライン講習会は伝達講習会だと思うが未定である。」

(4) 診療ガイドライン2026改訂版に関する作成方針について  
診療ガイドライン2026改訂版の作成を開始するにあたり、第1回診療ガイドライン運営委員会において作成方針を決定した。 [資料：ガイドライン1]

横山良仁学会側調整役「刊行時期は第78回の渡利英道先生の学術集会の開催に合わせて発刊を予定している。必要なことは記載するのでボリュームは減らさない方針。」

(5) 診療ガイドライン2026「産科編」に、2023改訂版と同様、新生児分野の先生にリエゾン委員として作成委員会に加わってご協力頂けるよう「日本周産期・新生児医学会」理事長あてに推薦依頼を发出したい。 [資料：ガイドライン2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 5) コンプライアンス委員会（杉山隆委員長）

(1) 本会役員等へのCOI自己申告書の提出依頼と回収状況について  
未提出者に対しては、督促を実施している。

杉山隆委員長「前回報告では4名であったが1名未提出に減っている。」

## 6) サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会（加藤育民委員長）

### (1) 会議開催

令和5年度第1回C2水準審査委員会(WEB)	7月25日
令和5年度第2回サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会 (ハイブリッド)	8月5日
令和5年度第3回サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会 (ハイブリッド)	12月7日午前 【予定】
令和5年度拡大サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会 (ハイブリッド)	12月7日午後 【予定】

### (2) C-2水準審査小委員会設置について

①当委員会内にC-2水準審査小委員会を立ち上げ、審査業務を担当する。委員構成は、当委員会から4名、中央専門医制度委員会から1名、産婦人科4分野の専門委員会から各1名とする。 [資料：サステイナブル1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (3) 拡大サステイナブル委員会

①12月7日（木）に拡大サステイナブル委員会をハイブリッド形式で開催予定である。  
加藤育民委員長「現地参加は予算の関係上50名程度とさせていただきます。」

(4) 厚生労働省との意見交換

- ①8月23日(水)に厚生労働省を訪問し、医政局地域医療計画課、医事課の職員に対し産婦人科医療改革グランドデザイン2023の概要の説明と、今後の周産期医療計画、働き方改革について意見交換を行った。

7) 産婦人科未来委員会 (谷口文紀委員長)

(1) 会議開催

キックオフ会議 (WEB 開催)	7月20日
第2回未来委員会 (WEB 開催)	8月29日
次期若手委員選考会 (現地開催予定)	10月16日【予定】
若手委員交代式 (現地開催予定)	11月17日【予定】
第3回未来委員会 (WEB 開催予定)	11月28日【予定】
第4回未来委員会 (現地開催予定)	2024年2月22日【予定】

(2) スプリングフォーラム (SF)

=====  
第14回スプリングフォーラム  
開催日程：2024年3月(予定)  
会場および開催形式：会場未定(現地開催)  
内容：講演、ワークショップ  
対象者：医師10年目前後  
=====

5年ぶりの現地開催とする予定である。

谷口文紀委員長「例年通りの予定。5年ぶりの現地開催としたい。」

(3) Plus One Project2 (POP2)

=====  
第8回 Plus One Project2  
開催日程：2024年5月18日(土)～19日(日)  
会場および開催形式：パシフィコ横浜ノース(現地開催)  
内容：実技実習(分娩・産科外科手技・腹腔鏡・超音波)、未来相談会、講演会  
対象者：臨床研修医2年目  
参加者：120名(予定)  
チューター：40名(予定)  
=====

次回も現地開催とし、懇親会も実施予定である。

谷口文紀委員長「例年通りの予定。」

(4) サマースクール (SS)

第17回産婦人科サマースクール《開催報告》

開催日程：2023年8月19日（土）～20日（日）

会場および開催形式：アートホテル大阪ベイタワー（現地開催）

内容：実技実習（分娩・産科外科手技・腹腔鏡・超音波）、臨床推論、未来相談会

対象者：医学生5～6年生、臨床研修医1年目

参加者：258名（内訳：医学生135名、研修医123名）

チューター：57名

台風の影響もなく、成功裡に終了した。参加者およびチューターへの事後アンケートは現在解析中である。

今回は、2024年8月24日（土）～25日（日）の日程で、同じくアートホテル大阪ベイタワーで現地開催し、懇親会も行う予定である。

谷口文紀委員長「今年も大阪で実のあるエネルギーな会ができた。」

(3) Welcome to OBGYN World! (WOW!)

第3回 Welcome to OBGYN World!

開催日時：2023年10月22日（日） 13:00～17:00

開催形式：ハイブリッド形式（各大学での現地参加を推奨）

対象者：医学部医学科1～4年生

募集人数：300名

チューター：専攻医3年目～医師10年目程度（目安） 各大学2名程度

目的：産婦人科領域への興味付け、各大学の学生とチューターとの繋がりを深める

8月30日現在、94名のチューター応募（50大学）、66名の参加者応募があった。できる限り多くの大学にご協力いただきたい。

(4) 次期若手委員公募

任期：2023年11月から2年間

募集人数：10名

応募資格：医学部卒業が平成26年～平成29年の方

受付期間：2023年8月28日（月）～2023年9月19日（火）

8月28日から募集を開始した。応募資格に該当する方には是非周知をお願いしたい。

谷口文紀委員長「周知をお願いします。」

(5) 第76回日本産科婦人科学会学術講演会 未来委員会企画

「若手にとって魅力ある施設づくりとは 一人材教育をリクルートに繋げる～（仮）」をテーマに外部講師をお呼びして講演会を行う。

(6) 次期若手委員 委員長・副委員長

若手委員会の内規に沿って選挙を行い、次期若手委員長に国立循環器病研究センター・小川紋奈先生、若手副委員長に京都府立医科大学附属北部医療センター・山下優先生が選出され、未来委員会で承認された。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

加藤聖子理事長「サマースクールはチューターや若手委員が良くしたいという情熱を感じた。感謝したい。」

## 8) 医療安全推進委員会（小林裕明委員長）

- (1) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、令和5年6月、7月の医療事故調査制度現況報告を受領した。 [資料：医療安全 1-1, 1-2]
- (2) 一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査・支援センターより「2023年度 協力学会担当者リスト 更新依頼」を受領した。資料に記載の先生方に依頼のうえ応諾頂き、本会から担当者一覧を提出した [資料：医療安全 2]

## 9) 公益事業推進委員会（岡田英孝委員長）

### (1) 会議開催

令和5年度第1回公益事業推進委員会（WEB開催）	8月2日
--------------------------	------

### (2) 各企業への寄附金依頼について

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、企業への寄附金依頼（趣意書送付）を一旦中止していたが、本会紹介として作成したリーフレット内容の見直しや寄附金依頼をする企業の選択を含め、企業への寄附金の働きかけを再開するか検討している。

## 10) 臨床研究審査委員会（小林陽一委員長）

### (1) 臨床研究審査報告

#### 【旧指針】

①新規申請 0件

②変更申請 2件

- ・大阪大学大学院医学系研究科 産科学婦人科学 講師 上田豊会員より日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録データベース使用申請として承認された「子宮頸がん症例に対する手術療法・放射線療法（同時化学放射線療法）・化学療法の成績における年齢因子の影響の解析」について変更申請が2件あり、審査の結果、7月10日および8月28日に審査結果を報告した。

[資料：臨床研究 1, 1-1]

③終了申請 5件

#### 【人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針】

①新規申請 4件

- ・国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター 東裕福会員より日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請として承認された「双胎妊娠における先進児経膈分娩後の後続児の帝王切開分娩に関連する因子の研究」について審査を行い、7月10日に審査結果を報告した。 [資料：臨床研究 2]

・国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター 左合治彦先生会員より日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請として承認された「周産期登録とART登録の連結による、不妊治療の周産期予後に関する疫学研究」について審査を行い、7月10日に審査結果を報告した。 [資料：臨床研究3]

・横浜市立大学附属市民総合医療センター 小畑聡一朗会員より日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請として承認された「母体の妊娠前体型が多胎妊娠の妊娠分娩転帰に与える影響の検討」について審査を行い、7月11日に審査結果を報告した。 [資料：臨床研究4]

・岡山大学学術研究院医歯薬学域 産科・婦人科学 増山寿会員より日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請として承認された「承認統計21世紀出生時縦断調査と日本産科婦人科学会専門委員会（周産期登録）データベースを利用した、様々な環境要因のNon-Communicable Diseasesへの影響評価」について審査を行い、8月7日に審査結果を報告した。 [資料：臨床研究5]

②変更申請 0件

② 終了申請 0件

(2)2022年度年次報告

提出28件、未提出1件

## 11) 感染対策連携推進委員会（川名敬委員長）

(1)会議開催

第1回「感染対策連携推進委員会」Web会議	8月2日
-----------------------	------

①本委員会の活動内容について確認し、第76回日本産科婦人科学会学術講演会の内容について議論した。

川名敬委員長「第76回日本産科婦人科学会学術講演会において委員会企画「産婦人科にまつわる感染症の課題と対策～他学術団体との連携をめざして」というテーマで準備を進めている。予防接種推進専門協議会の岩田敏先生にもご登壇いただけないかと考えている。」

②予防接種推進専門協議会に「妊婦のコロナワクチン優先接種対象に関する要望書案」を提出したことの経緯・今後の予定を報告した。 [資料：感染対策1]

(2)「妊婦のコロナワクチン優先接種対象に関する要望書案」について

本会から予防接種推進専門協議会に「妊婦のコロナワクチン優先接種対象に関する要望書案」を提出した。今後、予防接種推進専門協議会で承認をいただいた後に厚労省に要望する予定である。理事会後の記者会見で、資料2の内容を会見することについて承認いただきたい。 [資料：感染対策2,3,4]

川名敬委員長「妊婦さんを明記して欲しいという内容で本会が要望書を提出すると、本日の記者会見の中で報告していきたい。」

加藤聖子理事長「女性ヘルスケア委員会が感染症についての委員会企画を行ったが、聴講者も大変多かった。やはり感染症は、とても関心の高い内容であり本件もよろしく願いたい。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 12) 子宮頸がん検診・HPV ワクチン普及推進委員会 (宮城悦子委員長)

(1) 子宮頸がん予防に関する日本産科婦人科学会の方向性について (案)

[資料：子宮頸がん 1]

宮城悦子委員長「加藤聖子理事長、吉村泰典顧問より厚生労働省健康局長あてに要望に行った内容である。定期接種の正確な接種率を把握して公表して欲しい。キャッチアップの無料接種券の配布時期が自治体毎に大きく相違しており、認知度が当事者で33%と低くなっている。次年度までに改善して接種率を向上させて欲しい。また、HPV ワクチンの接種、子宮頸がん検診について。自治体による助成は10自治体程度。内容・要検討も不揃いであり、4価が中心となっている。HPV ワクチンは周知を促すことと、男性女性に関わらず接種、また9価を男子にも定期接種して欲しいなどのことを要望してきた。本件は、本日プレス公表を行いたい。」

加藤聖子理事長「厚生労働省健康局長からは、国からも自治体には同様のことを伝えている。また資料は大変参考になるとの返答であった。また、プレスリリースによりさらに認知度を向上させていきたい。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 子宮頸がん検診への HPV 検査導入における論点整理 (8月9日開催 厚生労働省がん検診のあり方に関する検討会)

[資料：子宮頸がん 2]

宮城悦子委員長「子宮頸がん検診については HPV 検査も入れていきたい。しかし、検査の精度を担保しないと細胞診よりも悪いということもある。細胞診はLBCを勧めたい。本日、理事会でこのような方針を進めたいことを承認いただきプレス公表もしたい。5年に1度 HPV 検査をして、陽性の人は細胞診を行う、ここまでが行政として行う。その後の診療は保険診療で行う。」

青木大輔監事「今年の6月に急に厚労省から HPV を入れるという話が来た。そう簡単ではないと考えている。まず我々がしっかり認識することが大事と思っている。今の細胞診をガラッと変えるということになるので、自治体、受診者が混乱すると思う。しっかりと基盤を構築しないといけないと思う。厚労省はかなり強く HPV を入れたいことを言ってきており、一気にとはいかないのでまずは要件作りをしている。そのガイダンスのようなものを学会が作ってほしいと言ってきている。行政が一番肝心なところは学会に依頼してくると思われる。がん検診に関しては、学会は関わってきていなかったが、学会が把握する良い機会ではあると思っている。指針を決める「がん検診のあり方に関する検討会」が重要な会議体となるが、産婦人科医が参画していない。自分と宮城悦子先生が漸く参考人として入ることができた。今後学会と連携して進めていきたい。」

加藤聖子理事長「HPV ワクチンは行政からはしっかり支えたいと言われている。周知がまだ不十分で、男性接種についても耳鼻科の学会が興味をもっており、一緒に進めていきたい。検診については大改革になると思うが、ガイダンスを学会が中心に作成してほしいというのはどういうことか。」

青木大輔監事「指針には細かなことは記載されず、学会のガイダンスに従ってほしいと記載

される。胃がん検診は消化器病検診学会のガイダンスに従って欲しいと記載されているように、国は学会に投げたいと思っていると思う。子宮頸がん検診は産科婦人科学会にと言われている。」

**加藤聖子理事長**「学会でも検討していきたい。国は予防に関して女性ヘルスケアなど関係があると言っているので、関連学会とも連携するのも良いと思う。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### 13) サブスペシャリティ連携委員会（渡利英道委員長）

#### (1) 会議開催

令和5年度第1回サブスペシャリティ連携委員会（WEB開催）	7月19日
-------------------------------	-------

(2) 各サブスペシャリティ分野（周産期、婦人科腫瘍、生殖・内分泌、女性ヘルスケア）より、現在の問題点を挙げて頂いた。問題点の解決策については今後委員会で協議する予定である。

### 14) セクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（SRHR）推進委員会

（水主川純委員長）

#### (1) 会議開催

令和5年度第1回SRHR推進委員会（WEB開催）	7月14日
--------------------------	-------

(2) 本会ホームページ「委員会情報」の本委員会コンテンツに「委員会だより第3報」を掲載する。内容についてご審議頂きたい。 [資料：SRHR推進1]

**水主川純特任理事**「家族法改正案に伴い、単独親権と共同親権について会員のみなさまに現状を知っていただくように掲載した。弁護士2名に内容は確認いただいている。」

**加藤聖子理事長**「タイムリーな内容であり、会員の中にも共同親権について知らない方がいるので周知したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### 15) ダイバーシティ・人材育成推進委員会（山本英子委員長）

#### (1) 会議開催

スタートアップミーティング（WEB開催）	7月26日
----------------------	-------

(2) 第76回日本産科婦人科学会学術講演会 委員会企画

① 日本、台湾、韓国の女性産婦人科医師の勤務の現状と男女共同参画の取り組みについて講演を行う予定である。

**山本英子委員長**「台湾、韓国からも演者の先生を招いて講演を行いたいと考えている。」

**加藤聖子理事長**「国際比較を行いながら、日本でどのように男女共同参画の取り組みができるか考えていただきたい。」

以上